

四街道市 第1回保健福祉審議会 会議録

日 時	平成24年7月4日(水) 午後1時30分から午後3時15分	
会 場	保健センター3階 第2会議室	
出席委員		
	柴 忠明	大岩 重次郎
	北村 富雄	島 万里子
	金子 恵子	栗原 直也
	江口 勝善	菅谷 英子
	有川 良子	吉沼 克治
	梅山 美枝	
欠席委員	傍聴者 4 名	
	澁谷 哲 中島 二郎	
会議次第		
	1 開 会	
	2 委嘱状交付	
	3 市長挨拶	
	4 正副会長の選出	
	5 議 題	
	1. 健康よっかいどう21プランの中間評価について	
	①計画の概要について	
	②市民意識調査結果について	
	③今後のスケジュールについて	
	6 閉 会	

4. 正副会長の選出

- ・会長： 互選により、柴委員に決定
- ・副会長： 会長指名により、大岩委員に決定

5. 議題 ①計画の概要について

【事務局】

審議会の制度においては諮問が基本となるが、本日の議題「健康よつかいどう21プランの中間評価について」に関しては、平成19年度策定時に平成24年度における中間評価を、庁内本部会並びに本審議会で実施する位置づけがなされていることから、「評価」をお願いするものである。貴重なご意見をいただきたい。

(健康よつかいどう21プランの概要について説明)

中間評価にあたり、プラン全体の理念や分野目標は10年間あるいはそれ以上のものとして捉えていただき、目標達成度の進捗状況等によっては、具体的な取り組み方法や優先度の軽重などについて、見直しが必要となるものと考えている。

【柴会長】

ただ今、事務局からご説明をいただいたが、概要について質問はあるか。

【栗原委員】

プランの位置づけについて説明がなかった。また「ポピュレーションアプローチ」「ハイリスクアプローチ」「ヘルスプロモーション」などの用語は一般には理解しづらいが、いかがか。

【事務局】

(プラン2ページを参照し、位置づけおよび用語について説明) カタカナ語そのままでも市民に話すことはないが、こうした考え方があるとして、プランには解説を付与し掲載した。

【栗原委員】

この計画は行政と地域一体となって進めていくものと理解した。それならば、市民にわかりやすい言葉でないと受け入れにくい。

【事務局】

中間評価に当たっては配慮する。

【吉沼委員】

近年脱法ハーブなるものがネット等を介して急速に若者に広まっている。四街道の状況は分からないが、高齢者よりも中高生が関わらずに済むように先手を打てないものか。薬物に準じるものとして学校や警察と連携して早急に取り組むべき課題と思う。

【有川委員】

プラン4ページ⑦地域での取り組みを重視する、については、具体的にはどのようなものか。

【事務局】

たとえば道路幅を広げるとか、高齢者の活動の場を作るとか、市全体の取組みを指す。

【栗原委員】

市民の健康づくりはポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの両輪ですすめていくものだと思う。プランの4ページ①では、このプランはポピュレーションアプローチであると

一番に唱っているが、⑤ではメタボ予防を掲げたり、それを目的とし年齢が限定されている特定健診などのハイリスクアプローチもプランに混在しており、現実には両方が混ざっていると捉えてよいのか。

【事務局】

ご指摘の通りだが、ハイリスクアプローチはもっと限定された対象への施策であり、このプランは広く市民全体に働きかけるためのものであるのでポピュレーションアプローチであるとしている。

【柴会長】

このプランはすでに出来上がっているものである。今回は中間評価に向けて活かせるように検討したい。他に意見・質問はあるか。

【委員】

なし。

議題 ②市民意識調査の結果について

【事務局】

(資料2:市民意識調査のまとめ、資料3:目標値達成率のまとめ について説明)

【柴会長】

ただ今、事務局からご説明をいただいたが、質問・意見はあるか。

【大岩委員】

先日報道で、千葉県民の健康寿命について、男性は全国3位、女性は25位と聞いた。健康寿命とはどこから出ている資料か、どのように算出しているのか。

【事務局】

健康でいられた年齢ということで、おそらく介護を要さないとか、複雑な集計をしていると思う。次回、回答する。

【吉沼委員】

感じたことを申し上げる。健康寿命については、先日シニア連での市長のあいさつで、四街道市の介護保険料の低さは全国トップクラスであり、四街道のシニアにはまだまだ元気でいてほしいと言っていたことにつながると思った。

また、メタボ予防について、太るなどか運動がいいとか分かっているけど難しい。何をしたらよいか、どこに絞るか、市として市民に打ち出せるものがあれば、続く人も出るのではと思った。

あいさつの問題だが、先日近所の子どもに「学校、頑張ってるね」と声をかけたら、後でその母親が「何を頑張れというのか」と訪ねてきた。そんなことまで言わないとわからなくなってしまったのか、と思う。

【梅山委員】

策定当時、市民講座に参加しヘルスプロモーションなどを学んだ。この中間報告は当時よりわかりやすくできていると思う。性について、当時エイズ教育推進校の指定を受けた学校区では、親や地域の自分たちも活動に参加していたが、その成果が19年の数字である。当時はこの活動

は続くものと思っていたが、続けていかないと下がるのだということが今回の数字に表れている。逆に小さなことでも続けているので成果が出ているんだなと思うところも他ではある。

【柴会長】

一点確認したい。同一集団が4年たってどうなったかという処理は統計上しているか。成人層は良いが、若年層は別枠でもよいからそれがわからないと評価はいえないのではないか。

【事務局】

前回・今回とも無作為抽出で調査しているので、そうした調整はしていない。

【栗原委員】

前回の調査はプランの策定前中後、どのタイミングで行ったのか。必要項目は吟味されたのか。

【事務局】

策定前に市民の現状を把握し課題を抽出するために行った。質問項目は策定委員会で検討していただいた。調査結果を策定委員会、庁内本部会等で共有し、プランを練っていった。

【柴会長】

策定過程の中で検討してアンケートを実施し、そこから目標を立て、23年にその達成度を見るために同じようにアンケートを実施したということである。

【栗原委員】

目標値に、10歳、14歳と年齢を限定しているのはなぜか。

【事務局】

調査項目からの目標設定なので、調査対象年齢とした。調査報告書1ページのとおり、成人は年齢幅を取っているが、若年層は学年を限定して実施した。

【栗原委員】

目標値の見込みについて、年+0.5%の根拠は何か。

【事務局】

目標値の設定根拠は、国の健康日本21の基準や、県の間接評価での進捗状況から当市の現状を勘案して算出したもの等、項目によって様々である。

【栗原委員】

根拠を知ったうえでの達成目標の妥当性の議論もないと、今回の達成度の評価は難しい。できれば国の基準、それに対して市が設定した基準等比較できる形で示してほしい。

【事務局】

当時、策定過程で作成した資料があるのでお示しできる。

【柴会長】

では、後日、事務局はその資料を呈示してください。他に意見・質問はあるか。

【委員】

なし。

議題 ③今後のスケジュールについて

【事務局】

(資料1 今後のスケジュールについて説明)

【柴会長】

ただ今、事務局からご説明をいただいたが、質問・意見はあるか。

【金子委員】

国の健康日本21も見直され、目標値の見直しもされてくるようだが、この後期計画はそれを取り入れていくのか、このままでいくのか。

【事務局】

国の見直し結果が見えていないが、必要であれば検討する。

【菅谷委員】

パブリックコメントとは何か。

【事務局】

案を作成した後、ホームページ等で広く市民の意見をうかがうもの。最終的に、それを加味した状態で最後の審議会に諮る。

【柴会長】

委員の方々に全体を通じて、他に発言はあるか。

無いようなので、本日の審議会はこれで終わらせていただく。

(終了)